



学生証を受け取る長寿大学生

いつまでも若々しく

つがる市長寿大学の開講式が5月27日、松の館で行われました。式では、学長を務める葛西教育長が各地区の代表者に学生証を手渡したあと、180人の学生を代表して小山内兼一運営委員長が「交流の輪を広げ笑顔の絶えない大学にしたい。学んだ知識や体験を若い世代に伝え、地域社会や家庭に貢献できれば幸いです」とあいさつしました。

式終了後の第1回学習会は、鯉ヶ沢町の蒼海海鳴り太鼓保存会による太鼓演奏を開催。勇ましい和太鼓合奏を鑑賞する参加者は、これから続く学習日程に弾みをつけている様子でした。

長寿大学は5月から11月まで月一回、音楽や笑い、健康などをテーマに開催されます。

みち銀労働組合が図書カードを寄贈

5月30日、みちのく銀行労働組合(菊池直紀執行委員長)が、市立図書館に20万円分の図書カードを寄贈しました。

これは、平成8年の組合結成20周年を機に地域に貢献しようと始めた奉仕活動で、従業員から年2回募った善意のお金を児童図書購入費として県内外の市町村に寄贈しているもの。寄贈総額は2,143万円へ上り、当市へは今回で3回目となります。

この日、市立図書館を訪れた菊池執行委員長は「未来を担う子どもの読書活動に役立ててください」と葛西教育長に目録を伝達。葛西教育長は「読みたい本を選ぶ力を引き出せるよう、様々なジャンルの本を揃えて、子どもたちのいろんな興味に対応したい」と話しました。



目録を贈呈した菊池執行委員長(左)。右は楢山木造支店長



沿道を清掃する館岡子ども会のメンバー

ベンセ湿原をきれいに

館岡子ども会(野呂義人会長)のメンバー15人が6月2日、観光客に気持ちよく散策を楽しんでもらおうと、ベンセ湿原付近のごみ拾いに精を出しました。この活動は今年で6年目。今回は駐車場からメロンロードまでの沿道約1kmで空き缶やたばこの吸い殻などを丁寧に拾い、ごみ袋(大)1つがいっぱいになるごみを集めました。参加した野呂和叶さん(瑞穂小6年)は「きれいになってよかった。ポイ捨てはやめて欲しい」と話していました。

5月25日には、木造地区老人クラブ(中村邦臣会長)のメンバー約50人が湿原周辺の草刈りなどを実施。地域住民の善意がベンセ湿原の環境美化に貢献しています。

花束に「ありがとう」をこめて

木造保育所(佐藤肇所長)の園児が6月4日、お世話になっている方々に感謝を伝えようと、市役所などに花束を届けました。これはキリスト教の風習の一つである6月第2日曜日「花の日」にちなんで毎年行っているもので、花束は園児らが家庭から持ち寄った花で作ったものです。

この日は、3歳児10人、4歳児11人が讃美歌を合唱し「いつも私たちのために働いてくださってありがとうございます」と福島市長らに花束とメッセージボードをプレゼント。福島市長は「今日は来てくれてありがとう。みんなが楽しく暮らせるようにお仕事がんばります」とお礼を述べていました。木造保育所では、教育委員会、郵便局、警察署、消防署へも訪問しました。



福島市長に花をプレゼントした園児ら

つがるの彩り ツアーで満喫

市内の観光名所を巡る定期観光バスツアーが6月4日から15日まで運行されました。

参加者は初夏を感じる爽やかな天候の中、ニッコウキスゲが咲き誇るベンセ湿原や千本鳥居で知られる高山稲荷神社などの彩り豊かな風景を散策。知識豊富なボランティアガイドの解説に耳を傾けながらツアーを満喫しました。

初日の6月4日、市内から毎年夫婦で参加しているという原田武志さん(72才)は「市内の名所をゆっくり回れた。今年はニッコウキスゲがちょうど見頃で一面に広がり、きれいで良かった」と話していました。

※24ページにベンセ湿原の写真を掲載しています。



千本鳥居をくぐるツアー客



はだしで田植えを楽しむ児童ら

コメ作りを通じて交流促進

車力小学校(藤田敏幸校長)は6月4日、航空自衛隊車力分屯基地の隊員らを招き、5年生29人を含めた約60人が田植え体験をしました。これは地域交流の促進を図る東北防衛局の働きかけで行われ、今回で2回目となります。

松橋来愛さんは「苗を真っ直ぐ植えるのが難しかった。いつも食べているおコメを作るのがこんなに大変なんだとわかった」と振り返り、田んぼを提供した松橋正儀さん(豊富町会長)は「最初不安そうだった子どもたちが最後は笑顔になった。彼らにとっていい経験になったと思う」と話していました。

活動は今後、米陸軍車力通信所のメンバーを加え、かかし作り、稲刈り、餅つきとコメ作りを通じて交流を深めていきます。

地域に愛され30周年「木造夕市」

6月6日、市商工会駐車場で「木造夕市」が始まりました。

夕市は、木造夕市の会(八木橋リウ子会長)の会員16人が、自分で作った品を持ち寄って路上販売するもので、新鮮な野菜や手づくりの加工品などが地域に愛され、毎年開かれています。この日は、ホウレンソウやチンゲン菜のほか、豆腐や漬物、笹餅などが並べられ、オープンを待ち望んだ大勢の市民らが、生産者と会話を交わしながら買い物を楽しんでいました。八木橋会長は「皆さまのご愛顧で30年。心を込めて作っているので安心して買い求めください」と話していました。夕市は10月までの毎週木曜日に開催(7/25、8/15、8/22、9/12は休み)。お盆(8/12)や十五夜(9/13)には特別セールも予定されています。



買い物客でにぎわう会場



手際よく捌かれていくマグロの解体即売会

恒例の「朝市」がスタート

木造の街の駅あるびよん付近で6月9日、恒例の朝市が開幕しました。オープニングセレモニーでは、長谷川靖久実行委員長が「農工商連携で商店街ににぎわいを取り戻そう」とあいさつした後、関係者一同で「がんばろう!」を三唱し、威勢よく朝市がスタート。会場では、旬の鮮魚や野菜、花などの地場産品を販売したほか、しじみ貝のすくいどりやマグロ解体即売会などのイベントも人気を集め、多くの市民らでにぎわっていました。

稲垣町から来た女性は「知らない人とも和気あいあいとふれあえる雰囲気が好き。今日は新鮮な魚を買いました」と話していました。朝市は、10月まで毎月第2日曜日、朝6時30分から同会場で開催、約15店舗が出店する予定です。